

経営者の在任期間と予想イノベーション

石田 惣平
蜂谷 豊彦

目次

- | | |
|--------------|----------|
| 1. はじめに | 5. 頑健性分析 |
| 2. 先行研究と仮説構築 | 6. 追加分析 |
| 3. リサーチ・デザイン | 7. 終わりに |
| 4. 分析結果 | |

本稿は、経営者の在任期間と予想イノベーション（＝当期予想値－前期実績値）の関係を検証している。検証の結果、在任期間が短い経営者ほど前期実績値に比べてより高い当期予想値を公表することによって、自身の評判の確立を試みることが明らかとなっている。また、在任期間が短い経営者は、利益調整を行って当期予想値を事後的に達成できない可能性を回避していることが確認されている。

1. はじめに

業績予想は、経営者が将来の企業業績に関する自身の予想を投資家に伝達するための手段の一つである。日本では東京証券取引所の要請により、決算短信の中で当期純利益などの予想値を開示す

ることが要求されている (Iwasaki *et al.* [2016]、Kato *et al.* [2009])。こうした制度の存在により、投資家が将来の企業業績を予測するに当たり、業績予想を利用する環境が整っている。

他方、東京証券取引所の要請は前期実績値に比べてより高い当期予想値、すなわち正の方向に大



石田 惣平 (いしだ そうへい)

埼玉大学大学院人文社会科学部 講師。2016年に一橋大学にて博士（商学）を取得。論文に“Evaluation of Managerial Ability in Japanese Setting” *The Japanese Accounting Review* 8 [2018]（共著）、「経営者の在任期間と目標利益達成を意図した利益調整」『経営財務研究』[近刊]（共著）、「世界金融危機下における会計保守主義と資金調達制約」『会計プロGRESS』[2015]（日本会計研究学会学術奨励賞）などがある。



蜂谷 豊彦 (はちや とよひこ)

一橋大学 理事・副学長、大学院経営管理研究科 教授。1996年に東京工業大学にて学術博士（Ph.D.）を取得。著書に『コーポレート・ファイナンスの考え方』[2013]（共著）、論文に“Banking relationship, relative leverage, and stock returns in Japan” *Pacific-Basin Finance Journal* 40 [2016]（共著）、「株主構成と株式超過収益率の検証—市場志向的ガバナンスのわが国における有効性—」『証券アナリストジャーナル』[2009]（共著）（証券アナリストジャーナル賞）などがある。